

## 英語学習者の移動表現のフレーム化に関する第二言語習得研究： 日本語・中国語母語話者を対象に

本研究は Talmy (2000 &b)による動詞枠付言語（日本語）母語話者と Slobin (2004)による equipollently-framed language (中国語)母語話者が衛星枠付言語（英語）を学習する際に、(1)英語のフレーム化習得にどのような相違点と共通点があるか、(2)第二言語のフレームを習得する際にはL1 からどのような転移があるか、そしてこの転移は習得にどのような影響を及ぼすかを調べることを目的とした。

Talmy (2000 a&b)がフレーム化においての言語類型を述べて以来、その類型論はよく論じられている(Slobin, 2004; Beavers, Levin & Tham, 2009 など)。Talmy の類型を第二言語習得に当てはめる研究は、Cadierno (2004)の全体的な研究や Inagaki (2002)の特定のポイントを調べる研究などがある。しかし、従来の第二言語習得研究では Slobin (2004)が述べた e-language を研究対象としていない。さらに、現在の第二言語習得研究は以下の3点に関し、十分な考察がされていないと思われる：1)母語と学習している言語の類似表現からの転移、2)両言語の母語話者データとの比較、3)第二言語学習者の様態を表す動詞と直示動詞の利用。

本研究では、英語母語話者、日本語母語話者、中国語母語話者のデータを分析し、英語学習者のデータとの比較を行った結果、e-language が衛星枠付言語と明らかに異なること、そして e-language 母語話者の習得が動詞枠付言語母語話者より早いことが明らかになった。e-language の習得がより早いのは母語においての様態を表す動詞の使用と動きの様態を表す比率からの転移によると考える。さらに、第二言語のフレーム化習得に関しては、学習暦より英語圏への滞在期間の方が影響力が強いことが分かった。この点は英語教育への示唆となると考える。

### 参考文献

Beavers, J., Levin, B., & Tham, S. (2009) *The typology of motion revisited*. Ms.

Cadierno, T. (2004). Expressing motion events in a second language: A cognitive typological perspective. In M. Achard & S. Niemeier (Eds.), *Cognitive linguistics, second language acquisition, and foreign language teaching* (pp. 13-49). Berlin: Mouton de Gruyter.

Inagaki, S (2002) Japanese learners' acquisition of English manner-of-motion verbs with locational/directional PPs. In *Second Language Research*, Vol.18, No.1, pp.3-27.

Slobin, D.I. (2004) The many ways to search for a frog: Linguistic typology and the expression of motion events. In S. Strömquist & L. Verhoeven (Eds.), *Language in mind: Advances in the study of language and thought* (pp. 157-192). Cambridge, MA: MIT Press.

Talmy, L. (2000a). *Toward a cognitive semantics: Concept structuring systems*. Cambridge, MA: MIT Press

Talmy, L. (2000b) *Toward a cognitive semantics: Typology and process in concept structuring*. Cambridge, MA: MIT Press